

平成 28 年度 学校評価（自己評価）

I. はじめに

学校における最も重要な項目は、**園児の育ち**と、その為の**教師力の向上**にあると考える。それ故、学校評価の初年度である平成 20 年度は、大きくはその 2 点に絞り、学校評価を行った。さらに、保護者の生の声を参考にしたいということから、平成 21 年度と、平成 26 年度においては、**全保護者にアンケート**を実施し、その結果を基に学校評価を行った。平成 27 年度は、安松幼稚園の教育全般に対する理念・考え・取り組みと共に、特別支援教育をテーマの一つとし、どの程度達成されているかの学校評価（自己評価・学校関係者評価）を行った。本 28 年度は、**歌唱指導における先生の指導力の向上** をテーマに、目標設定 (P) 実行 (D) 評価 (C) A(改善) の各要素について、学校評価を行う。なお、昨年度のテーマであった 特別支援教育 に関して、ある専門の方から得がたい評価を頂いたので、学校関係者評価の最後に付記する。

II. 本年度の学校評価の項目として、歌唱指導をテーマに選んだ理由……目標設定 (P)

安松幼稚園の教育は、**情緒教育**そのものであり、全ての教材の展開において、園児一人一人に**美的感受性・美的情緒**を育みたいと思っている。そしてこれら美的感受性・美的情緒こそが、**創造的な仕事の源**であるのです。

美的感受性・美的情緒とは

- ・野に咲く一輪のスマイルを見て美しいと感じる心
- ・きれいな詩歌を聴けば、自然と涙がこぼれるような情感
- ・人と人との助け合いや触れ合いの話を聞き、感動する心
- ・自然、人の生き方、芸術、俳句や詩に、感動し心震わせ涙する心

などである。

幼稚園において、こういう美的感受性を育む教材は多くありますが、その中でも歌唱は、多くの園児たちの感性・情緒を育てる分野であることは明らかでしょう。

上記の理由から、安松幼稚園における**歌唱指導はどうあるべきか**という観点から、**歌唱指導における先生の指導力の向上**を、**本年度の学校評価の目標設定**としました。

III. 実行 (D)

●何事においても、明白な目標があれば、それに向けての取り組み・実行がされやすい。当園では、6 月末に 園内お楽しみ音楽会 そして今年度は 2 月に、泉の森ホールにおいて、新春旅立ちコンサート ～伝えよう 誇り高き日本の文化～ が開催される (た)。

その二つの大きな音楽会に加えて、年に各クラスで 4 回開かれるお誕生日会 授業参観や日常の授業において、歌唱指導がなされる。

●先生の指導力を高めるのが全てである。そのためには、先生方が歌唱指導について学ぶ機会が必要である。年に 10 回程度、元大阪教育大学附属天王寺・音楽科の諸石先生にお越し頂き、当園の先生が子供に指導する様子をご覧頂き、その後に反省会をもち、かなり強烈な指導を受け、それぞれの考えを率直に述べ合っている。

●そういう 実践→勉強会→実践→勉強会→ …… を通じ、歌唱の本質、歌唱指導の要諦を学んで行く過程において、先生の指導力が高められていった。

IV. 評価 (C)

- 前項目で述べたが、率直な指導・学びはなかなか辛い事であるが、先生方はよく耐え、指導力を高めてきたし、各自がそのように自己評価している。
もちろん、経験年数、音楽的な才能資質、取り組む際の精神力気力により、指導力の高まりには違いはあるが、大きなところにおいては、十分な成果を上げたとして自己評価できる。
どういう点の気付き、力量の高まり、あるべき歌唱指導 等々についての内容の評価は、次の項である改善 (A) で述べる。
- 各先生方においては、十分に歌唱指導の力量を高めることが出来たと自己評価するが、客観性を持たせるために、次の学校関係者評価には、この自己評価と共に、専門家の寄稿文、並びに 保護者からのお便りを数点提出する予定である。

V. 改善 (A)

歌唱指導において、次のような気付きがあり、指導が大いに改善されたと評価できる。

安松幼稚園の音楽（歌唱）指導の基本理念

●表情

- ・表情は音楽の基本。表情のない歌は音楽にあらず。
常に表情を良くし、声を柔らかくする努力をすること。

●表現（動作）

- ・自然な動作を入れることによって歌いやすくなり、楽に歌えて響きがぴたっと合う。
- ・体全体が脱力し、喉も柔らかくなり、伸びる声になる。

●アタック & なめらか（柔らかく）を バランス良く

- ・アタックから、押すことにより、しっかりした声が出る。
- ・声がきつくなりすぎると、なめらかに変える。
- ・声がかスカスとなると、アタックに変える。

●ストップモーション

- ・歌詞の滑舌をハッキリさせる
- ・表情をつける練習
- ・声を休める効果あり
- ・瞬間ストップする事により、瞬時に個々のすべての子供の表情を見回す。
- ・3歳児等、指導の中に笑いを促し、気分転換の効果もあり。

●部分練習が基本であり、通しはそれほど必要なし。部分練習と つなぎの練習で 通しは完成する

- ・1番 a,b,c,d 2番 a,b,c,d 3番 a,b,c,d の場合の部分練習では、
1番 b 2番 b 3番 b のように、串刺しで練習すると能率がよい。
- ・例えばbとcのつなぎは、bの最後のフレーズとcの最初のフレーズをつなぐだけであり、
b、cすべてを歌う必要はない。

留意事項

☆指導以前に、先生が歌いこんで、曲想を持っていること

- ★目の前の子供の状態がきちとこちらを向いてそろっているかを見極め、一点集中させなければ、意味なし……普段の躰そのものとも言える ← すべての授業で優先されるべき最重要事項
- ★子供の声を聞き分けることが前提
- ★小言ばかりにならず、できた子供を褒めるなりして、楽しく変化をもたらし、やる気を引き出すこと。そのためにも、ストップモーションのバリエーションを多くもつこと
- ★全体指導、グループ指導、個人指導を適宜織り交ぜること
いずれにしても、目の前の状況の見落とし（眼・耳）のないように！！
- ★無駄な言葉を無くして、一言で指示をする習慣をつける。
注意は一言でよい。指導にもリズムとタイミングが必要。
いつも同じリズムで行なうと、言葉なしでも子供はついてくる。言葉は不必要となる。

上記のように、先生方の歌唱に関する指導力は大きく高められたと、PDCAの各要素において自己評価するところであり、この自己評価を、若干の資料を添えて、学校関係者評価の会に提出する所存である。

平成 28 年度 学校評価（学校関係者評価）

I. 最初に

今回、学校関係者委員会に提出された本 28 年度の学校評価（自己評価）は、**歌唱指導における先生の指導力の向上** をテーマとされていました。

学校関係者委員会としての下記の評価に至りましたので、ここに学校関係者評価を提出致します。また昨年度のテーマであった **特別支援教育** に関しましても、少し触れたいと思います。

II. 先ずは、自己評価の検証

(1)歌唱指導における先生の指導力の向上 をテーマ（P 目標設定）とされたことについて

自己評価の目標設定にありますように、幼稚園児に対して美的感受性を育むことの重要性和、そのための有効な教材として、歌唱指導があるというご指摘は、もったもなことで評価致します。

(2)指導力の向上のために、具体的にどのような事をされているか（D 実行）について

自己評価に記されています通り、日本でも音楽指導で高く評価されている諸石先生の厳しい指導を受け止めて、実践・学びのサイクルをされていることは、私達幼稚園に出向きました際、しばしば目にしており、遅くまで勉強されている先生のお姿を、高く評価しておりました。

自己評価にあります通り、具体的に実行されていることを評価致します。

(3)実際の私達保護者の（C 評価）として、次のお母さんのお便りを、掲げたく存じます。

そのお手紙から理解できることですが、先生方の歌唱教育の指導力が非常に高められているという自己評価を、全面的に肯定致します。●傍証の一つ目として、まずはお母さんのお便りです。

先生方の熱意ある指導から引き出された 子供の溢れんばかりの情緒・感性に涙 年中ゆり組
先日の音楽会、**本当に一生懸命に先生の指揮を見て、追って、真剣に歌う子供達の姿に涙が溢れ、先生方の熱意ある指揮にも感動しました。**心より感謝申し上げます。

今までは、家で歌ったりすることは少なかった息子ですが、音楽会が終わった今も毎日よく歌っています。

その中の出来事なのですが、主人とともに涙したことがありました。

息子はよく「年長さんの声はすごくきれいやねん」と言っています。

特に『やさしさに包まれたなら』が好きなようなので、CD を聞かせてみました。

すると息子は、「これ、違う……」と言いました。（以下、私達の会話です）

母「何が違うの？」

子「声も違うけど……年長さんが歌ってるやつ聞く方がいい」

母「どうして？」

子「**年長さんの、きれいやねん。とくにな、あの『カーテンを開いて……目に映るすべてのことはメッセージ』**

が好きや。あれ聞くと、涙出てくるん。

なんかなあ、勝手にぶわーって出てくるん」

母「どんな気持ちなの？」

子「……きもちよくて……あったかくてなあ……やさしい気持ち。

いつも練習で聞いてて、幼稚園で泣いてしまったん、恥ずかしいから かくしたけどなと、ニッコリ笑いました。

息子の言葉に夫婦で驚き、涙がこぼれました。

まだ“感動”という言葉を知らないのでこのような表現になっていますが、**息子の気持ちは十分に伝わりました。**息子も、大人と同じように、歌を聴いて感動する心が育っていたのですね。

もうなんだか……息子の成長に夫婦で涙です。

年中に転入しわずか 3 か月、**先生方の日々の熱意と誠意ある指導のおかげで、歌うということだけでなく、このような素晴らしい情緒・感性を育てて頂いたこと、本当に嬉しく心から感謝申し上げます。**

●傍証の二つ目として、諸石先生の寄稿文を掲げます。

新春 旅立ちコンサート（於 泉の森ホール）に向けて

諸石孝文

泉の森コンサートの開催を機縁とし、安松幼稚園の歌唱指導について、一つ目は考え方などの概論を、二つ目はコンサートの個々の曲について具体的に記してみました。

●まずは、大きな考え方から

今年の泉の森ホールコンサートの曲目には、名曲、大曲、難曲がズラリと並んでいます。しかし、子供たちにとって、そんな大人の見方は、どうでもよいくらいに、**楽しそうに曲を歌っています。**時には、信じられないくらい軽々と。

子供に譜面で教えるわけでもないし、**先生が歌ってそれを真似させるだけ**ですから、大人が難しいと思えば、どんな曲でも歌えるはずですが。

そして、曲想とか音楽的なことは、表情、表現（動作）を真似させることで教えることができるので、歌詞の内容が難しいから、この曲は子供には無理、ましてや5歳の幼稚園児に歌えるはずがないとかいうのは、大人の勝手な考え方です。

問題は、どのような表現をするかということだけですが、それは、先生の仕事です。子供たちには、忠実に表情、表現を真似することを求めるだけです。

そして不思議なことに、歌詞の深い本当の意味がわからなくても、**良い表情、表現を身につけて歌える子供は、まるで全て理解しているかのように歌うことができるようになっていくもの**なのです。これはまるで、モーツァルトのピアノ曲の演奏は、プロの演奏家が弾くよりも子供が弾く方が時には自然に聞こえる、とよく言われることと似ているような気がするのです。つまり、モーツァルトのように、自然な流れを持つ名曲の場合、**変に解釈された演奏よりも、子供の演奏の方が素直で自然に聞こえる**ということです。園児の歌でも同じことが言えると思うのです。

子供たちは、大人では考えられないぐらいの速さで歌詞を覚えてしまいますし、表現の会得も速い。**問題はそれを全員でピッタリ合わせるかということ**です。もちろん、歌いながら。これが、合唱の出来映えを左右するポイントとなります。その根底には普段からのしつけ教育があって、それがあって初めてできることだということは言うまでもありません。

●コンサートの曲 並びに より具体的な指導について

メインは、年長児全員、100人による合唱です。最初は**唱歌2曲**から始まるのですが、「君をのせて」は、小学校以上のクラスでよく歌われる名曲です。「怪獣のバラード」は中学校ぐらいでよく歌われています。喜納昌吉作詞・作曲の「花」も音程が上下して歌いにくい曲なのですが、安松幼稚園では、もう普通に歌える曲目の中に入っています。そういう曲を5歳児が歌います。そして、**特筆すべきは、何と言っても松任谷由美の「春よ、来い」と森山直太朗の「さくら」**でしょう。共に名曲ですが、この大人の曲を園児たちが清らかな声で美しく歌い上げていく様は、聴いていても感動します。

【具体的な指導】

裏声の使い方も工夫しています。多くの他の幼稚園では、裏声の指導は行っていませんが、例えば、「さくら」では、最高音が Gis(ソ#)にまで達して、**裏声を駆使して歌っています。**他の曲でも、

注1 真似ることの意味

教育の原点は、よい手本の真似をさせることです。教室や運動場での先生の長々とした説明は意味が無く、子供のやる気を失ってしまいます。よい手本を見せて、さっと実技に入る。これが理想です。

体育・書道・歌唱・詩の朗唱・楽器演奏以外にも、歌舞伎・狂言・落語などの古典芸能でも、全ては先生の真似から始まり、一つの基本・型を身につけていきます。

注2 情熱ある先生の手本が全て

注1に記しましたように、教育とはよい手本の真似から始まります。

教育の質とは、先生の質です。その先生がよい手本を示すことができるかどうかにかかっています。

注3 しつけ教育が全ての始まり

しつけ教育によって集中力・持続力が養われ、その上に美的情緒が花咲くのです。

高音の F(ファ)ぐらいは、普通に出しています。他の幼稚園では考えられないことでしょうか、安松幼稚園では、裏声の子と地声の子とをグループに分け、それをミックスさせて高音を美しく聴かせる工夫をしています。曲によって、グループの編成も変わります。

もちろん、その為の先生方のご苦勞は並大抵のものではなかったと思いますが、そういう苦勞を重ねながら、美しいものを創り上げてゆくという努力を、園児と共に日々行っています。

「春よ、来い」では、最後に印象的な二部合唱を

入れています。幼稚園で二部合唱というのも、普通はあまり行われていないことです。

第2部のクラス合唱の方も名曲がそろっていますが、例えば、「めぐる季節」の中でも途中で、安松幼稚園独自で考え出したメロディーの入った二部合唱を取り入れています。ただ単に歌っているというのではなく、それが美しく響いているのです。

注4 チームでよい手本を示す

安松幼稚園はチームで指導しています。

歌唱においては、表情・表現の指導（手本）が最も重要ですが、それ以外に、歌声、ピアノも大切な要素です。

●最後に

忘れないでおいて頂きたいことは、この演奏は、合唱団やクラブや課外活動での選ばれたメンバーによるグループ等の演奏ではなく、普通のクラスの子供全員による演奏だということです。

歌の得意な子もそうでない子も含めて、音楽が専門ではない先生方が、安松幼稚園独自の方法で合唱に取り組んできました。

しかも、放課後の時間に特別に練習したわけではなく、平素の授業の中の限られた練習時間で、運動や制作などと並行しながら仕上げてきたものです。

この時期は、最終的には風邪やインフルエンザとの闘いになります。子供たちの体と喉を守ることも含めて、保護者の方々とも、共に取り組んでいます。

いろいろな面で、新しい挑戦をしている安松幼稚園ですが、このコンサートに向けての取り組みの一端を紹介しました。

是非、児童合唱団の指揮者の方や、小学校の現場の先生方等に見て聴いて頂きたいと思っています。

(文責 諸石孝文)

(4) A 改善

今年2月の新春旅立ちコンサートは、「幼稚園児ではないでしょう。プロの集団でしょう！！」と評価したくなるほどの進化を遂げていました。

これは、自己評価の V. 改善 (A) にありますように、歌唱指導において、10年前とは異なる改善が多く取り入れられていると確信します。

III. 最後に

色々と自己評価を検証してまいりましたが、自己評価と共に、私達が日常園で見聞きしていること、お母さんのお便り、諸石先生の寄稿文、それと共に実際の子供達自身の歌声を参考にしながら議論を進めてまいりました。

ここに学校関係者評価として、自己評価が適切であるとみとめます。

IV. 付記

昨年度は、特別支援教育に関しての 学校評価を行いました。

今年の平成 29 年 3 月に、特別支援教育に関して詳しく、ある大学の先生をしていた方（現在は非常勤）から次のようなお便りを頂きました。2 年間、安松幼稚園と交流のあった方です。

昨年の学校評価に追記したく、ここに第三者の評価として、参考までに掲げておきます。

2年間で私が最も驚いたことは、先生達の指導力です。
特に、発達障害や多動といった「ちょっと気になる子」の2年間の恐ろしいほどの伸び、驚き ため息（よい方の） が出ました。

年中・年長とみましたが、各クラスに 軽～中度と、クラスは違いますが、気になる子が2～3人、各クラスに配置されていると感じました。「どのような指導をするのかな」と、私の個人的な興味がムクムクと.....。

数名を年長さんでみると、

- ・走れなかった子の運動能力がとても上がっている
- ・人前に出ることだけでも大変なのに、大きなホールで楽しそうに歌っている
- ・授業参観では、全くものおじせず答えている

本当に驚きました。

でも、私が見える範囲は 一部ですが、毎回、前後のフォロー（先生達の）が素晴らしい。先回りで、子どもが安心できるように動かれているのを見て感動しました。毎回の積み重ねが、生徒さんと先生とのつながりをしっかりと作られていることが解りました。

思ったことをただ書き綴ってしまいました。

乱文 及び 失礼を申し訳ありません。